第十章　天災地変

第一節　概説

我が国の自然的災害のうち冷害は東北日本に多く、西南日本から中央日本にかけては風水害の被害が殊に多い。病虫害の被害は全国的であつてこれについては江戸時代にはまだ駆除する方法も考えられず、虫送りなどの行事即ち稲の開花期の前に村中の人が炬火をたいて虫を追い払いうるとしこれらに頼つて被害から逃れようとしていた。これらの病虫害の被害より何と云つても著しい災害は風水害である。七月から九月にかけて毎年のように颱風がわが国土を襲い、粒々辛苦して作り育てた稲田も瞬時にして大被害を被りその上家屋などに受ける被害も僅少ではない。このような気象的災害に対して当時の農民は人の力ではどうにもならない。この様な宿命的な災害から疫病、餓死、病死の悲境につき落され、あたら生涯を終えるのは誠に悲哀陰さんなものである。この様な現象には社会的人為的な条件が働いていることも併せて考えなければならぬ。普通飢饉とは大自然の災害がもとになつて作物の收穫が減少し食料が欠乏し飢餓、疫病、餓死、病死などの生ずる数多い様相の事を指している。それは第一に生産力が非常に低くそのため商品生産が未発達であつたこと。第二に農民は最低生活に必要な部分を残して大部分を強制的に上納されたことにあつた。又鎖国政策で外国と食料の売買が出来ず且つ幕藩体制下では藩は独立国の観を呈し藩の間での米穀の融通が困難であつた事もあろう。兎に角自然的、人為的な条件から来る特殊な現象であることに間違いはない。わが国で凶作が飢饉とならない様になつたのは明治七年米が強制的に商品となつてからであろう。一九四五年敗戦後の大混乱の中に平年作の六〇％の收穫であり乍ら封建時代の大飢饉とは比較にならない程平穏に切抜けられた。今日以後凶作はあつても飢饉はないであろう。全く時代の変化に驚かないではいられない。しかし我が稲作は凶作に陥る数々の因子を孕（ハラ）んでいるので安心は出来ない。今徳川治下三百年間に亘る災害を略記することによつて、当時の農民の心理と惨状の一端をうかがうことにしよう。

災害年代表

西暦紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一六二六	後水尾	寛永三年	秀忠	生駒高俊	四月大風雨　秋七月に至るも雨なし	七月餓民餓死
一六二七	〃	〃四年				
一六二八	〃	〃五年				
一六二九	〃	〃六年				
一六三〇	〃	〃七年				
一六三一	〃	〃八年				
一六三二	〃	〃九年	家光			
一六三三	〃	〃一〇年				
一六三四	〃	〃一一年				
一六三五	〃	〃十二年			正月十五日高松大火あり	
一六三六	〃	〃十三年				
一六三七	〃	〃十四年				
一六三八	〃	〃十五年				
一六三九	〃	〃十六年				
一六四〇	〃	〃十七年				
一六四一	〃	〃十八年		山崎家治		
一六四二	〃	〃十九年				
一六四三	〃	〃二十年				
一六四四	後光明	正保元年			七月生駒高俊羽後由理郡矢島一万石に遷さる 生駒氏讃岐守たること四世五十四年山崎甲斐守家治三野多度豊田三郡五万三千石に封ぜらる（全国的大飢饉）	春夏天下大いに飢ゆ 大野原開基 四月から十一月まで雨降らず餓死者住民の十分の一に及ぶ
一六四五	〃	〃二年			秋大旱　大ききん	
一六四六	〃	〃四年	家光	山崎家治		
一六四七	後光明	正保三年				
一六四八		慶安元年				
一六四九		〃二年		俊家		
一六五〇		〃三年				
一六五一		〃四年	家綱			
一六五二		承応元年				
一六五三		〃二年				
一六五四	後西	〃三年			正月十日高松大火四百八十一戸焼失 夏大旱　秋大風洪水牛馬疫にたおる。	夏大旱　秋洪水村民困窮に陥り死者多し
一六五五		明歴元年				
一六五六		〃二年		虎之助		
一六五七		〃三年			三月虎之助死す継嗣なし五月山崎西讃侯たること三世十七年　大水京極高知西讃侯に封ぜらる播州網干一万石併せ六万三千石食む	
一六五八		万治元年		京極高知		
一六五九		〃二年				
一六六〇		〃三年			五月洪水	夏大水あり
一六六一		寛文元年			八月大雹ふる。	
一六六二		〃二年		高豊	十二月四日襲封　五月地震	
一六六三		霊元				
一六六四		〃四年				

西歴紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一六六五	霊元					
一六六六		〃六年	家綱	高豊		
一六六七		〃七年			七月三日　大風	
一六六八		〃八年				
一六六九		〃九年			夏旱　雨を乞う	
一六七〇		〃一〇年				
一六七一		〃一一年				
一六七二		〃一二年				
一六七三		延宝元年			五月十四日　洪水	大雨洪水
一六七四		〃二年				
一六七五		〃三年				
一六七六		〃四年				
一六七七		〃五年				
一六七八		〃六年				
一六七九		〃七年			大洪水　山崩れ多し	

西歴紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一六八〇	霊元					
一六八一		延宝八年	綱吉			
一六八二		天和元年				
一六八三		〃二年				
一六八四		〃三年				
一六八五		貞享元年				
一六八六		〃二年				
一六八七		〃三年				
一六八八	東山	〃四年		高豊		
一六八九		元禄元年				
一六九〇		〃二年				
一六九一		〃三年				
一六九二		〃四年				
一六九三		〃五年				
一六九四		〃六年				
一六九五		〃七年		高或		
		〃八年			八月大雨洪水死者百人 此年穀不登世申酉の洪水と云う 高松藩松島西浜で飢者を救助	大雨洪水　水死者多し
					七月廿五日　大風洪水	
					九月九日　大風洪水	
					うさぎ鹿の害甚し	
					六月七日　旱	
					八月二日　大風雨	
					五、一八帰藩途中ほうそうにかゝり死 す　六、一八封をつぐ	
					七月　大風洪水　穀不稔	（全国的大飢饉）

西歴紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一六九六	東山	元禄九年	綱吉	高或	九月九日　大風雨	
一六九七		〃十　年			夏大旱　高松に大火あり	
一六九八		〃十一年			夏大旱	
一六九九		〃十二年				
一七〇〇		〃十三年			大日でり	
一七〇一		〃十四年			大風洪水稲虫発生	
一七〇二		〃十五年			高松藩府庫をひらく田畑不残いたむ八月大風地震	大風洪水
一七〇三		〃十六年				
一七〇四		寛永元年				
一七〇五		〃二　年			閏四月七日　大風雨　自四月至七月その間九十五日旱　民多く死す	
一七〇六		〃三　年			九月十三日　大風洪水穀不登民多くうゆ	
一七〇七		〃四　年			十月四日　大地震十三月に入り地震やむ	三月　地震 九月　大風雨 十月　飢饉 大地震　地さく
一七〇八		〃五　年				
一七〇九	中御門	〃六　年	家宣		痳疹流行	
一七一〇		〃七　年			六月七月旱　八月大風洪水、穀不登	

一七一一	中御門	正徳元年	家宣	高或	秋冬虫　穀不登	
一七一二		〃二　年	家継			
一七一三		〃三　年				
一七一四		〃四　年			食糧に窮し向地から米五〇石買とる	
一七一五		〃五　年			七月七日　大地震 八月より冬まで疫病流行	
一七一六		享保元年	吉宗			
一七一七		〃二　年				
一七一八		〃三　年			五月四日霜ふる六、七月の間旱 秋蝗　穀不登　夏牛馬多損	
一七一九		〃四　年			八月廿七日　夜氷降る 秋蝗　穀不登　大ききん	
一七二〇		〃五　年			夏霖雨　秋穀不登	
一七二一		〃六　年			連年凶作　民うえる者多し　春より麦熟するまで賑恤　七月大洪水	
一七二二		〃七　年			春大ききん賑恤冬大ききん　八月大風洪水西讃殊の外多くひどく溺死者多し	
一七二三		〃八　年			春ほうそう大流行　大風家を倒す	
一七二四		〃九　年		高矩	六月廿二日　高或死す 此年天災しきりに至つて穀不登	
一七二五		〃一〇年			大旱　蝗　霖雨　穀不登 十月十二日　地震	四月大雹ふる
一七二六		〃一一年			穀不登	

西暦紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一七二七	中御門	享保一二年	吉宗	高矩	正月廿三日　地震　二月十九日　大風	
一七二八		〃一三年			八月　大風洪水	
一七二九		〃一四年			春より五月まで旱	
一七三〇		〃一五年			秋大風洪水　人家はそん　穀不登	
一七三一		〃一六年			天災ひんぱん　八月　疫病　穀不登	
一七三二		〃一七年			凶作相つぎ困窮乏	
一七三三		〃一八年			ききん　稲虫発生（全国的大飢饉）	
一七三四		〃一九年			七月大疫、秋蝗、大ききん、大疫流行	
一七三五	桜町	〃二〇年			春夏大疫死者多し	
一七三六		元文元年				
一七三七		〃二年			十二月十八日　大風雷　雪	
一七三八		〃三年			十二月廿一日　大風雪	
一七三九		〃四年			洪水	
一七四〇		〃五年			八月　大風洪水	
一七四一		寛保元年			夏大旱　八月大風洪水	
					七、八月　大風洪水	
					七月大風雨　民家二千戸被害	大風雨
					連年凶作上下困厄	

一七四二	桜町	寛保二年	吉宗	高矩		
一七四三		〃三年			冬より翌春にかけて大疫死者多し	
一七四四		延享元年			八月　大風洪水海にあふる。冬寒さきびしく河川、井水皆凍る南方の山脈雪丈余、人畜凍死多し	
一七四五		〃二年	家重		旱ばつ	
一七四六		〃三年			八月洪水　秋蝗　穀不登	
一七四七		〃四年			夏旱　八月　大風洪水　九月　疫病流行	
一七四八		寛延元年			六月五日間に亘って風雨洪水六月以後旱又は大風洪水しきりに至る	
一七四九		〃二年			六月　大風洪水　牛疫流行	
一七五〇		〃三年			十二月　連年凶作　百姓一揆	
一七五一		宝暦元年			七、八月旱牛、馬疫流行　この年冬より翌春にかけて大疫流行死者多し	
一七五二		〃二年			六月　大風洪水	
一七五三		〃三年			しば〳〵大風洪水、秋蝗	
一七五四		〃四年			農作物害う　猪鹿が農作物をあらすこと大	
一七五五		〃五年			風雨強し	
一七五六		〃六年				
一七五七		〃七年			七月　大風洪水　民家数千戸破壊	
					人畜死傷多し　九月　大風洪水	
					桜桃大の雹ふる	
					夏　大旱ばつ	
					八月　大洪水	
					九月　疫病蔓延	
					（元年―二年凶荒）	
					井関池東宇手目決潰	
					大風洪水　人畜の被害多し	

西暦紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一七五八	桜町	宝暦八年	家重	高矩		
一七五九		〃九年				
一七六〇		〃一〇年	家治			
一七六一		〃一一年			高しお	
一七六二	後桜町	〃一二年				
一七六三		〃一三年		高中	十月封をつぐ	
一七六四		明和元年				
一七六五		〃二年			八月　大風洪水　高潮	
一七六六		〃三年			自六月至八月　旱	
一七六七		〃四年				
一七六八		〃五年			洪水	
一七六九		〃六年			洪水　丸亀藩救済	大洪水
一七七〇		〃七年			自六月至八月　大旱	
一七七一		〃八年			自四月至六月　大旱	六月大旱
一七七二		安永元年			八月　大風洪水　家屋破壊一万九千余戸	

一七七三	後桜町	安永二年	家治	高中	春夏大疫　人多く死す	
一七七四		〃三年			夏疫病流行　高潮	
一七七五		〃四年				
一七七六		〃五年			八月　大風洪水　痳疹流行	
一七七七		〃六年				
一七七八		〃七年				
一七七九		〃八年			六月　大旱	
一七八〇		〃九年				
一七八一		天明元年			五月　大風洪水　民家多数破壊	
一七八二		〃二年			二月二、三、四大風（全国的大飢饉） 五月四日　大風雨　八月大風	
一七八三		〃三年				
一七八四		〃四年				
一七八五		〃五年			大旱　七月十一日　大風洪水	
一七八六		〃六年			八月廿九日　大風雨　九月廿六日　大風雨	
一七八七		〃七年			大風	
一七八八		〃八年			雨つづき大洪水	

西歴紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一七八九	後桜町	寛政元年	家治	高中	夏旱	
一七九〇		〃二年			夏旱 蝗 穀不登	
一七九一		〃三年			洪水 高潮	
一七九二		〃四年			大風雨	七月と九月に大風雨あり
一七九三		〃五年				
一七九四		〃六年			夏旱	
一七九五		〃七年			洪水	
一七九六		〃八年				
一七九七		〃九年				
一七九八		〃十年				
一七九九		〃十一年			秋旱 蝗	
一八〇〇		〃十二年				
一八〇一		享和元年			洪水	
一八〇二		〃二年				
一八〇三		〃三年				

一八〇四	後桜町	文化元年	家治	高中	大風雨	
一八〇五		〃二年				村内、経済大逼塞
一八〇六		〃三年			自四月至六月 大旱	
一八〇七		〃四年				
一八〇八		〃五年			六月廿九日 大風樹木を倒す	
一八〇九		〃六年			六月—八月 大旱	六月 大風洪水
一八一〇		〃七年				
一八一一		〃八年		高朗	五月十三日 高中死す 三月九日 封をつぐ	
一八一二		〃九年			西讃民藩府に種米を借る	
一八一三		〃十年				
一八一四		〃十一年			自五月至七月大旱	
一八一五		〃十二年				
一八一六		〃十三年			洪水	八月 大風洪水
一八一七	仁孝	〃十四年			自五月至七月大旱九月九日大風雨人馬溺死多し	九月九日 大風雨人畜溺死
一八一八		文政元年			雨ふらず秋こまる	
一八一九		〃二年				

西歴紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一八二〇	仁孝	文政三年	家治	高朗	大風洪水	
一八二一		〃四年			七月廿九日　大風洪水	
一八二二		〃五年			五―七月大旱	
一八二三		〃六年			大旱　雨乞しきり	
一八二四		〃七年				
一八二五		〃八年				
一八二六		〃九年			自五月廿一日至六月六日大風洪水	五月六月　大風洪水
一八二七		〃十年				
一八二八		〃十一年				
一八二九		〃十二年			大風洪水	大風洪水
一八三〇		天保元年				
一八三一		〃二年				
一八三二		〃三年			六月から八月大旱	
一八三三		〃四年			八月　大風洪水（全国的大飢饉）稲虫発生	大風洪水　蝗害甚だしく油まきをすすめた。
一八三四		〃五年			八月大風洪水	

一八三五	仁孝	天保六年	家治	高朗	大風雨洪水	
一八三六		〃七年			旱天	
一八三七		〃八年	家慶		穀不登きゝん	
一八三八		〃九年				
一八三九		〃十年			大風雨洪水	
一八四〇		〃十一年				
一八四一		〃十二年			八月九日　大風洪水	八月九日大風洪水天保の改革倹約令下る
一八四二		〃十三年				
一八四三		〃十四年				
一八四四		弘化元年				
一八四五		〃二年				
一八四六		〃三年			大風雨洪水	
一八四七		〃四年			七月　大洪水	
一八四八		嘉永元年				
一八四九		〃二年			大風洪水	
一八五〇		〃三年		朗徹	嘉永三年三月封をつぐ九月二日　大風洪水秋蝗害	

西暦紀元	天皇	年号	将軍	藩主	讃岐の記事	大野原の記事
一八五一	仁孝	嘉永四年	家慶	朗徹	大風雨洪水（九月）	
一八五二		〃五年			大旱魃	
一八五三		〃六年			十一月四日五日人家倒れ屋外に避難す	
一八五四		安政元年			大地震余震久しくやまず	震後産業不振
一八五五		〃二年			七月八月九月大風洪水	
一八五六		〃三年			大風洪水（八月一日）	
一八五七		〃四年			大風雨洪水（八月二十日）	大風洪水
一八五八		〃五年			八月　コレラ大流行	
一八五九		〃六年	家茂		七月二十三日　大震	
一八六〇		万延元年			夏霖雨穀不登　七月十一日大風洪水	
一八六一		文久元年				
一八六二		〃二年			自四月至七月　マシン大流行大風洪水	民飢ゆ粟を賑救す
一八六三		〃三年				
一八六四		元治元年				
一八六五		慶応元年			八月七、八日　大風洪水　雹降る	
一八六六	明治	慶応二年	慶喜		八月一日より八日まで暴風雨	大風洪水被害甚大　高瀬、財田川決潰
一八六七		〃三年				
一八六八		明治元年			明治二年三月丸亀藩知事	
一八六九		〃二年			十月八日丸亀藩内火薬爆発	
一八七〇		〃三年			大風洪水	
一八七一		〃四年			大風洪水	
一八七二		〃五年			八月　藩知事罷	
一八七三		〃六年				
一八七四		〃七年			大風雨　大旱魃	旱害風水害甚し
一八七五		〃八年				
一八七六		〃九年			旱魃	
一八七七		〃一〇年				
一八七八		〃一一年				
一八七九		〃一二年				
一八八〇		〃一三年			大風雨	
一八八一		〃一四年			八月十一日大風	

西歴紀元	天皇	年号		讃岐の記事	大野原の記事
一八八二	明治	明治一五年		暴風雨洪水	
一八八三		〃一六年		赤痢コレラ大流行　大風雨　大旱魃	
一八八四		〃一七年		暴風雨（三回）	
一八八五		〃一八年		大風雨	暴風雨被害甚し
一八八六		〃一九年		コレラ大流行　旱害　暴風雨	
一八八七		〃二〇年		暴風洪水	
一八八八		〃二一年		暴風雨	
一八八九		〃二二年		台風四国を縦断す	
一八九〇		〃二三年		旱害	
一八九一		〃二四年			
一八九二		〃二五年		台風四国中部を横断す	
一八九三		〃二六年		大旱害	
一八九四		〃二七年		大旱害	旱害の被害甚し
一八九五		〃二八年		台風四国西部通過	台風被害大
一八九六		〃二九年		八月暴風雨大洪水	

一八九七	明治	明治三〇年		大旱天　暴風雨	
一八九八		〃三一年		大風水害	
一八九九		〃三二年			
一九〇〇		〃三三年			
一九〇一		〃三四年			
一九〇二		〃三五年		コレラ大流行　せん風被害、風水害	暖冬（一九〇二―一九〇三）
一九〇三		〃三六年		旱天	
一九〇四		〃三七年		旱天	
一九〇五		〃三八年		凶作　雷雨降雹暴風	凶作被害大
一九〇六		〃三九年		水害	
一九〇七		〃四〇年		風害	
一九〇八		〃四一年		赤痢及天然痘大流行　風水害	
一九〇九		〃四二年			
一九一〇		〃四三年		せん風、雨水害	せん風による海難多大
一九一一		〃四四年		風水害	
一九一二	大正	〃四五年 大正元年		旱魃	

西歴紀元	天皇	年号		讃岐の記事	大野原の記事
一九一三	大正	大正二年		旱魃	
一九一四	〃	〃三年		雷害、台風	
一九一五	〃	〃四年		雷雨　雹害、高潮、風水害	
一九一六	〃	〃五年			
一九一七	〃	〃六年		せん風、風水害	せん風による海難多大
一九一八	〃	〃七年		流行性感冒大流行　風水害（四回）米騒動（八月）	台風被害甚大
一九一九	〃	〃八年			
一九二〇	〃	〃九年		五月から七月の間にて約二ケ月間降雨なし　台風による風水害三回	
一九二一	〃	〃一〇年		せん風害	海難大
一九二二	〃	〃一一年		大旱天	
一九二三	〃	〃一二年		関東大震災　六月海難多大	
一九二四	〃	〃一三年		大旱魃　海難大	旱害甚し
一九二五	〃	〃一四年			
一九二六	今上	昭和元年	〃一五年	雷害　突風害	
一九二七		〃二年			

一九二八	今上	〃三年		台風（二回）	
一九二九		〃四年			
一九三〇		〃五年			
一九三一		〃六年			
一九三二		〃七年			
一九三三		〃八年			
一九三四		〃九年		室戸台風、大旱害	台風被害殊に甚し
一九三五		〃一〇年		台風（二回）	
一九三六		〃一一年			暖冬（一九三六―一九三七）
一九三七		〃一二年		台風	
一九三八		〃一三年		台風	
一九三九		〃一四年		夏大旱魃ドビン水を稲田にす	被害甚大
一九四〇		〃一五年			
一九四一		〃一六年		台風	
一九四二		〃一七年		旱害、豪雨	
一九四三		〃一八年		台風（二回）	

西暦紀元	天皇	年号			讃岐の記事	大野原の記事
一九四四	今上	昭和一九年			大旱害	旱害甚し
一九四五		〃二〇年			九月大風水害で稲穂二回に白穂となる	被害最も甚し
一八四六		〃二一年			十月大雨大洪水	大谷池決壊（五月）地盤沈下
一九四七		〃二二年			地震あり可成つよし（南海地震）	被害甚し
一九四八		〃二三年			大雨	
一九四九		〃二四年			螟虫の被害甚大	麦作不良
一九五〇		〃二五年			暖冬異変	
一九五一		〃二六年			ジェーン台風	大雪があつた
一九五二		〃二七年			七月三十年来の連雨だつた	
一九五三		〃二八年			十月十四日から十五日にかけルース台風あり（風速五〇米）	三〇糎に及ぶ積雪で被害大
一九五四		〃二九年			大雪、水害、台風十三号	住宅被害も多大
一九五五		〃三〇年			台風十二号、十五号襲来	

以上に於て郷土に関係のある災害を列挙したが所謂旱害、水害、風害、火災、病虫害が主なものである。中でも旱害はその最たるもので西讃ではその被害が激甚である。今炭谷恵副氏（現観一高校長）の「香川県旱ばつ旱害の研究」によると

①三年目或は五年目に旱ばつが起り易い

②九年目十年目頃も亦起り易い間隔である。

③十五年目前後も週期に当るようである。

尚五十年期間の旱害数を表で表そう。

時代	期間（50年間）	旱害数
	西暦	
江戸	1626～1675	5
	1676～1725	9
	1726～1775	16
	1776～1825	14
	1826～1875	4
現代	1876～1925	10
	1926～	2

又鹿角義助氏の発表によると最も長いのは十九年目最も短いもので五年目に現われると云つている。以上を大観するのに近畿に一番早くへり次いで山陽、四国、九州に減じ最後には東北や山間に集中する様相になつた。之は技術の発達や商品の流通が一般化した結果によるものと思う。

第二節　災害の影響とその対策

㊀雨　乞